1. がん検診推進のために新たな事業展開を

本町の第2期健康増進計画の「がん対策」において「開成町の死因の第1位はがんです。各種がん検診を定期的に受診することにより、早期発見、早期治療に努め、がんによる死因を減少させることが重要です。」と示している。

町ではコロナ禍の影響から集団検診を中止し、個別検診のみ実施している。町民からは、定着していた集団検診の利便性が語られ、検診のため個別に病院に行くことは、コロナの感染を恐れ躊躇しているとの声も聞かれることから、受診率の低下が懸念される。

コロナ禍において、町民の生命を守るため、がんの早期発見、早期治療の手立てとして、更なる検診の周知徹底と集団検診の体制づくり施策が必要である。

また、乳がんの早期発見については、自身の指の腹を使って乳腺に触れることで、腫瘍を見つけるなどの「自己検診」が重要である。そこで、「乳がんグローブ」と呼ばれる手袋をはめて自己触診を行うと、見つけにくい腫瘍の発見が有効とされ、導入している自治体もある。本町でも乳がんグローブを導入するべきと考える。

以上のことから次の事項を問う。

- ① 集団検診の今後の展開は。
- ② 乳がん検診の節目年齢とされる町民を対象に乳がんグローブを支給する考えは。